

# 発寒北商店街

(発寒北商店街振興組合)

北海道札幌市

## ！取組のポイント

コミュニティ施設の設置・運営や暮らしに関する相談窓口の設置などの様々な事業を通じ、地域コミュニティの再生・維持に大きく寄与。

## 取組の背景

### ニーズ調査をもとに商店街の機能を転換

近隣への大型商業施設の出店などによる来街者の減少・空き店舗の増加を受けて来街者へのニーズ調査を行ったところ、特に若年層は買物を1箇所で済ませる傾向が強く、地域の物販機能を担う役割が商店街からショッピングセンターなどへ移っていると感じた。そこで商店街の機能の見直しを行い、「物販ではなくサービスを提供する商店街」への転換や「地域コミュニティの担い手」としての活動の重要性に気づき、「40年後、札幌で一番住みやすいまちへ」をスローガンとして掲げ、広く商店街の決意を示した。これを受け、2012年には進行する高齢化への対策として「ハツキタくらしの安心プロジェクト」事業に着手するとともに、将来の消費の核となる若い世代・子どもに着目し、地域商店街活性化法の認定を受けて子育て支援事業に着手した。

年3回開催しているハツキタマルシェ



## 取組の内容

### 高齢者・子育て世代のコミュニティを形成

住民からの「高齢者が気軽に集い、コミュニケーションを図れる場が欲しい」などの声を受け、①多世代交流の場づくり事業、②くらしの安心づくり事業、③地域の生きがいづくり事業の3事業から成る「ハツキタくらしの安心プロジェクト」事業を実施した。

事業①では、コミュニティ施設「にこびあ」を整備、施設内には高齢者交流室や入浴室を設け、商店街としてデイサービス事業に参入を果たした。

コミュニティ施設「にこびあ」



事業②では、住民の住まいや暮らしに関する相談に加え、地域医療機関や介護事業所などの情報提供サービスや空き店舗情報の収集などに関する相談も一括して商店街が受けられるようにした。また、暮らしに関するトラブル対応のため、「ハツキタくらしの安心窓口」を設置した。

事業③では、地域住民間の交流促進と食事・会合の場の提供を目的としたコミュニティカフェ&レストラン「ハツキタ茶屋ぎんなん通り」やレンタルスペースを「にこびあ」内に設けた。

また子育て支援事業の一環として、子どもが安心して遊べるスペース、託児要員、子育てに関する書籍や情報検索端末などを設置し、子育て中の母親や妊娠中の母親が安心して使えるカフェを用意した。また、子育て講座などの子育て世代向けのイベントや情報発信を行った。

## 取組の成果

### 交流促進・地域の困りごと解決に貢献

「にこびあ」では、デイサービス事業を通じて高齢者同士の交流が生まれている。また、「にこびあ」を会場として子育て応援イベントや高齢者向けイベントも開催されており、地域住民の交流に一役買っている。

「ハツキタくらしの安心窓口」は、地域住民の生活における困りごとの解決に寄与している。年々相談件数は増加し、2014年には参画している20店舗で約1600万円の売上を達成し、商店街加盟店の売上にも貢献している。

「ハツキタ茶屋ぎんなん通り」は、コミュニティカフェに子育て支援機能を付加し積極的に情報発信をした結果、より一層地域の母親達が集い、お互いに情報交換し交流できる貴重な場となった。

このような取組はテレビなどでも取り上げられており、全国から注目を集めている。

「ハツキタくらしの安心窓口」パンフレット



## 実施体制

発寒北商店街には青年部などの組織が無いものの、小中学生の子どもをもつ役員・組合員が多く、各種イベント活動や安心窓口業者との連携など様々な部分に参画している。また、商店街が実施するイベントの中には、女性視点での企画・運営を取り入れたものもあり、地域住民と商店街とのパイプ役として参画してもらっている。

事業実施にあたっては国の補助などを活用し、初期投資の軽減に努めているほか、事業によっては手数料・使用料を徴収し、この収益を事業継続・新規事業展開の財源としている。

## 基本データ

|        |   |
|--------|---|
| 所在地    | 北海道札幌市西区発寒  |
| 人口     | 約21万人(札幌市西区)  |
| 電話/FAX | 011-663-8541  |
| 関連URL  | <a href="http://hatsukita.jp">http://hatsukita.jp</a> |
| 会員数    | 106名  |
| 店舗数    | 106店舗(買回り品小売店20、最寄品小売店5、飲食店16、サービス店61、その他4)           |
| 商店街の類型 | 地域型商店街  |
| 主な客層   | 主婦、高齢者、家族連れ   |

## キーパーソンからのコメント

発寒北商店街振興組合  
理事長 土屋 日出男



### 物販からサービスの提供へ

現在の商店街の役割は何か?“地域の役に立つようになること”これが商店街再生への道ではないかと考え、「40年後、さっぽろ一住みやすいまち」を目指そうと様々な事業を展開してきました。

大型店との価格競争に勝つことは、まず不可能ですが、地域に根ざした商店街だからこそ、この不得意な部分を補うに足るサービスの提供が可能です。そこで、商店街が住民の皆さんの困りごとを受ける「ハツキタくらしの安心窓口」を設け、商店街の信頼を得ることで、採算性重視の大型店との差別化を図ってきました。

### 商店街は地域コミュニティの担い手

町内会や学校などと連携しながら、地域コミュニティの担い手として商店街にできることを考えるうちに、増え続ける高齢者の要望に応えることが重要だと気付き、商店街として地域住民の皆さんに対してサービスの提供を行うことで、地域に対してできることがあることが分かりました。

地域のことは地域で解決することで、地域循環型商店街の確立を目指し、商店街活動を通して心豊かなまちをつくり出すことを目標に、今後も、地域とともに歩んでいきたいと考えております。

## 商店街概要

1856年創建の稲荷社(現在の発寒神社)のもと、飲食店を主として集まり形成された商店街である。高度成長期には近隣の工業団地発展に歩みを同じくして商店の集積が進み、1977年に発寒北商店街振興組合としてのスタートを切った。当商店街は札幌市の西部に位置し、JR函館本線「発寒中央駅」を起点として南北全長約1.5kmに街区を形成している。商店街周辺は高齢化が進んでいたが、近年交通アクセスや利便性の良さからマンションやアパートの建設が進み、若い世代も増加し、高齢者や子ども、若い母親世代が交流する場として地域住民から親しまれている。